

メールマジック プロフェッショナル

Windows版

バージョン12追加マニュアル



このマニュアルにはバージョン10、バージョン11とバージョン12に追加された新しい機能などについての説明が記載されています。

SMTPサーバーの設定

初めてメールマジックを立ち上げるとき、「サーバー設定ダイアログ」が表示されます。ここにSMTPサーバー（メールを送信するサーバー）の情報を入れて「接続」をクリックします。今すぐサーバー設定を行いたくない場合は「キャンセル」をクリックして下さい。サーバー設定は「オプション」メニューの「サーバー設定」でもできます。

ここで入れた情報でサーバーに接続できない場合は「オプション」メニューの「サーバー設定」を選んで手動で設定を行って下さい。（下記の「サーバー設定ダイアログ」を参照して下さい。）

バウンスメール処理機能

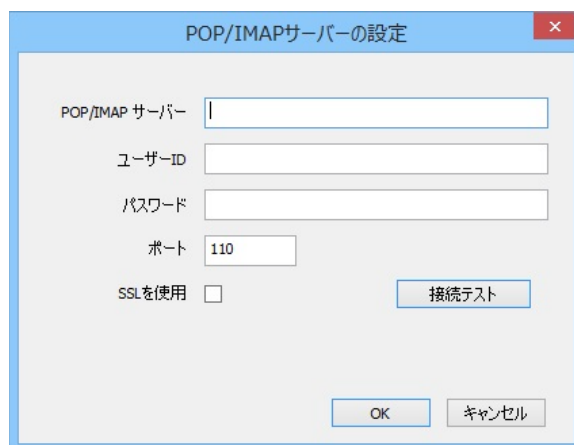
沢山のメールを送信するとき、何かの理由で一部のメールが送信先まで届かなくて戻って来ることがあります。こういうメールはバウンスメールと言います。ほとんどの場合、届かない理由はアドレスが間違っていることです。この機能を使ってバウンスメールを検索して自動的にデータベースから削除、または「バウンスメール」グループに移動できます。メールを送信するときに「バウンスメール」グループに入っているメールアドレスには送信されません。

※「メールマジック」はメールの件名を見てバウンスメールかどうかを判断します。「メールが届きませんでした」、Mail delivery failed、Undelivered mailなどの件名のメールがバウンスメールとして判断されます。サーバーによってバウンスメールの件名が異なりますのでメールマジックが認識しないバウンスメールがある場合があります。

バウンスメール処理機能の使い方

1. 受信メールサーバー（POP/IMAP サーバー）の設定

エラーで戻って来たメールを検索するため、POP/IMAPサーバーにアクセスする必要があります。「オプション」メニューのサーバー設定を選択して、表示されるダイアログの中にある「POP/IMAPサーバー設定」ボタンをクリックして下さい。



POP/IMAPサーバーの設定

POP/IMAP サーバー

ユーザーID

パスワード

ポート

SSLを使用 ☐

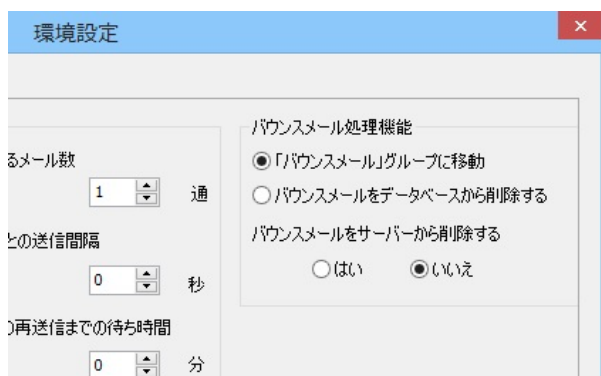
接続テスト

OK キャンセル

このダイアログに必要な情報を入力します。接続を確認したい場合は「接続を確認」ボタンをクリックして下さい。

2. 機能の設定

「オプション」メニューの「環境設定」を選んで、「送信」タブをクリックして下さい。右上にバウンスメール処理機能の設定オプションがあります。



環境設定

送信するメール数 通

どの送信間隔 秒

再送信までの待ち時間 分

バウンスメール処理機能

☒ 「バウンスメール」グループに移動

☐ バウンスメールをデータベースから削除する

バウンスメールをサーバーから削除する

☐ はい ☒ いいえ

1. バウンスメールを削除するか「バウンスメール」グループに移動するか設定して下さい。
2. 受信メールサーバーにあるバウンスメールを削除するかそのまま残すか設定して下さい。

3. バウンスメール機能の実行

メールを送信後、データベースの「ツール」メニューから「バウンスメールの確認」を選びます。



表示されるダイアログの中にある「開始」ボタンをクリックします。

メールマジックは受信サーバーに接続してバウンスメールを検索します。受信サーバーに沢山のメールがある場合、検索に時間がかかります。

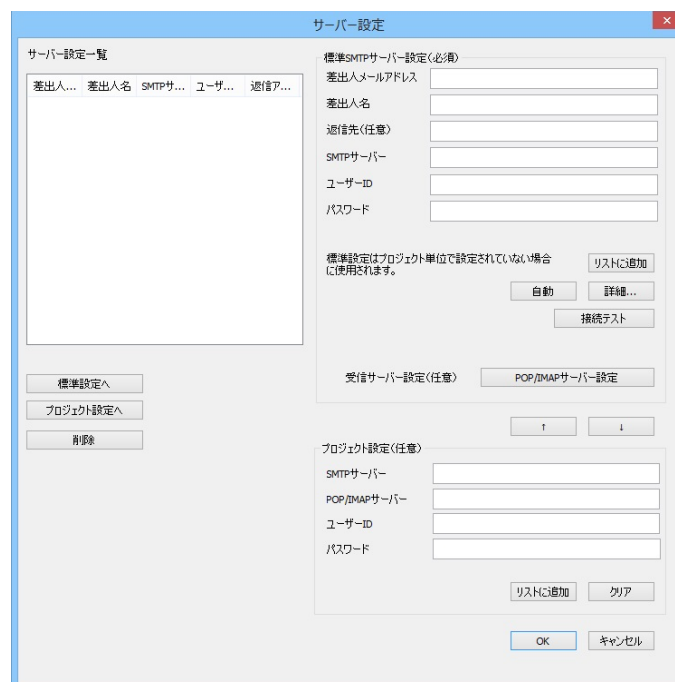
先ほど行った設定によって、戻って来たメールのメールアドレスが入っている行がデータベースから削除されるか、または「バウンスメール」グループに移動されます。

次からメールを送信するときに「バウンスメール」グループにあるメールアドレスにはメールが送信されません。

サーバー設定ダイアログ

11からサーバー設定ダイアログの内容が少し変わりました。説明書の「サーバー設定ダイアログ」の部分の代わりに下記の説明を参照して下さい。

[オプション]メニューの [サーバー設定 …]を選択すると「サーバー設定ダイアログ」が表示されます。このダイアログでSMTPサーバーの設定を行います。



自動サーバー設定

差出人メールアドレス、SMTP サーバー、ユーザー ID とパスワード だけを入れて「自動」ボタンをクリックすると自動的に SMTP サーバーに接続できます。自動的に出来ない場合は下記の説明をお読みになってから手動で設定を行って下さい。

設定項目

差出人メールアドレス：差出人のメールアドレスを入力します。これは任意ですが、利用するプロバイダによっては差出人メールアドレスのドメインとメールサーバーのドメインが一致していないと送信できない場合があります。詳しくはプロバイダの書類をご参照ください。

差出人名：任意で差出人の名前を入力します。入力すると、送信されたメールの差出人のヘッダーに差出人名が記載されます。

返信先（任意）：返信のメールが差出人のアドレスと別のアドレスに届いてほしい場合はそのアドレスをここに入れます。

SMTP サーバー：メールを送信するサーバー(SMTP サーバー)を入力します。詳しくはプロバイダの書類をご参照ください。

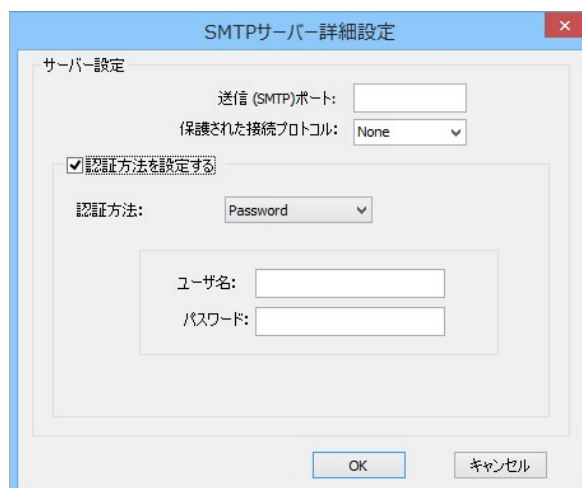
ユーザー ID：プロバイダの書類に書かれているユーザー ID(プロバイダによってはユーザーアカウントなどという呼び方になっています)を入力します。

パスワード：メールアカウントのパスワードを入力します。

※ 各設定は、プロバイダの書類やそのホームページ等をご参照ください。

詳細設定

「詳細」ボタンをクリックすると認証方法、ポート番号などを設定できるダイアログが表示されます。

この図は「SMTPサーバー詳細設定」ダイアログボックスのスクリーンショットです。ダイアログのタイトルバーには「SMTPサーバー詳細設定」とあり、右上には閉じるボタン（X）があります。ダイアログ内には「サーバー設定」というセクションがあり、その下に「送信 (SMTP)ポート:」と「保護された接続プロトコル:」の項目があります。「送信 (SMTP)ポート:」はテキスト入力フィールドで、「保護された接続プロトコル:」は「None」が選択されたドロップダウンメニューです。その下には「☒ 認証方法を設定する」というチェックボックスがあり、これが選択されています。チェックボックスの右側には「認証方法:」とあり、「Password」が選択されたドロップダウンメニューがあります。さらに下には「ユーザ名:」と「パスワード:」の2つのテキスト入力フィールドがあります。ダイアログの右下には「OK」と「キャンセル」の2つのボタンがあります。

「送信 (SMTP)ポート」にプロバイダが設定しているポートの番号を入れて下さい。

※ ポートの詳細については契約されているプロバイダへお問い合わせ下さい。

次に、SMTP サーバーが SSL また TLS 接続を必要としている場合は「保護された接続プロトコル」のメニューから「SSL/TLS」を選びます。

次に、SMTP 認証 (SMTP AUTH) を利用されている場合、[認証方法を設定する] 項目を設定します。これは、SMTP サーバーの利用者がそのサーバーの正規の利用者であることを確認するために、「ユーザー ID」と「パスワード」を入力し認証する仕組みになります。

※ SMTP 認証を利用していない場合、設定を行う必要はありません。また、認証方法はプロバイダへお問い合わせ下さい。

接続のテスト

「接続テスト」ボタンをクリックすることでSMTPサーバーに接続できるかどうか確認できます。接続できる場合は「接続できました」のメッセージが表示されます。設定に問題があればSMTPサーバーに接続できませんので「接続できません」のメッセージが表示されます。「ファイルを見る」のボタンをクリックすると接続テストのログファイルが表示されます。サーバーからのエラーメッセージなどが記録されていますので、これを見て接続できない原因を突き止めることができます。

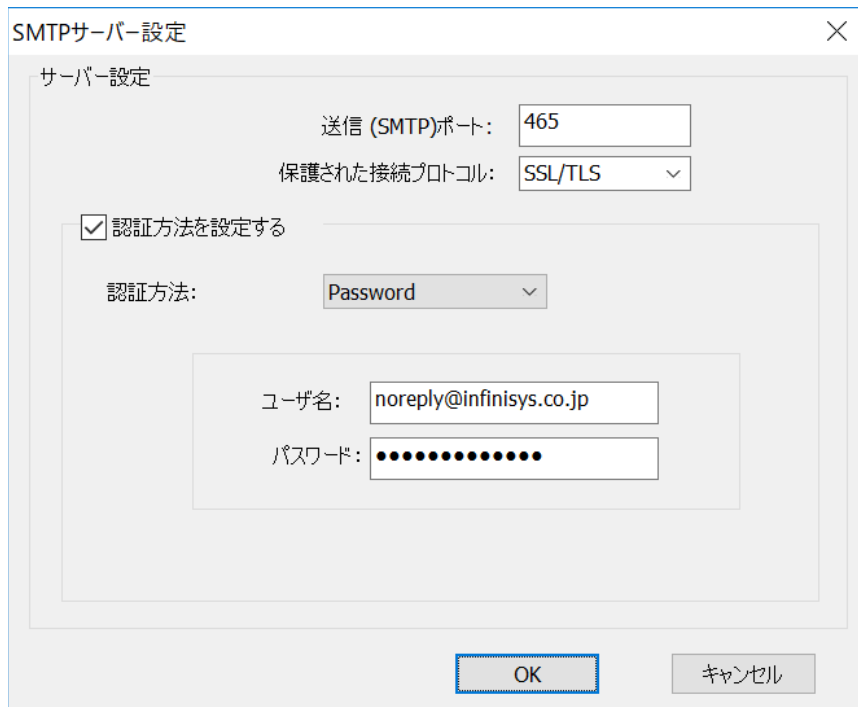
※サーバーによっては、SMTP認証の設定が間違っても接続テストが成功しますがメールを送れない場合があります。この場合はSMTP認証の設定、または「差出人メールアドレス」を確認して下さい。

入力の例

下記のスクリーンショットは入力の例です。このような設定でほとんどのサーバーに接続できます。送信にしたいメールアカウントの情報を例のデータと入れ替えて下さい (メールアドレス、名前、サーバー、ID、パスワードで)

標準SMTPサーバー設定 (必須)	
差出人メールアドレス	<input type="text" value="noreply@infinisys.co.jp"/>
差出人名	<input type="text" value="株式会社インフィニシス"/>
返信先 (任意)	<input type="text"/>
SMTPサーバー	<input type="text" value="mail.infinisys.co.jp"/>
ユーザーID	<input type="text" value="noreply@infinisys.co.jp"/>
パスワード	<input type="password" value="●●●●●●●●●●"/>

詳細設定



The image shows a dialog box titled "SMTPサーバー設定" (SMTP Server Settings). It contains the following fields and controls:

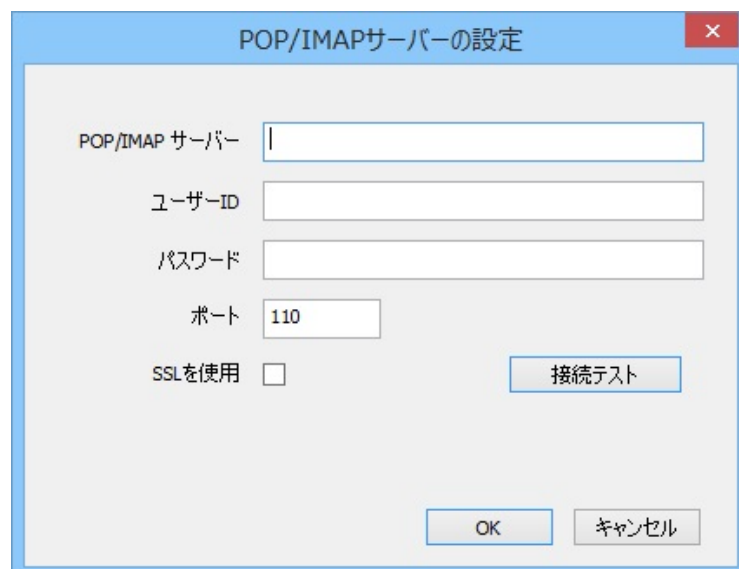
- 送信 (SMTP)ポート:** A text box containing the value "465".
- 保護された接続プロトコル:** A dropdown menu showing "SSL/TLS".
- 認証方法を設定する:** A checkbox that is checked.
- 認証方法:** A dropdown menu showing "Password".
- ユーザ名:** A text box containing the value "noreply@infinisys.co.jp".
- パスワード:** A text box filled with dots, representing a masked password.
- Buttons:** "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons at the bottom right.

「ユーザ名」は「ユーザID」と同じです。

POP/IMAPサーバー設定

POP/IMAPサーバー設定は「バウンスメール処理機能」を使う場合のみに必要です。

「POP/IMAPサーバー設定」ボタンをクリックすると下記のダイアログが表示されます。



The image shows a dialog box titled "POP/IMAPサーバーの設定" (POP/IMAP Server Settings). It contains the following fields and controls:

- POP/IMAP サーバー:** A text box with a cursor inside.
- ユーザーID:** A text box.
- パスワード:** A text box.
- ポート:** A text box containing the value "110".
- SSLを使用:** An unchecked checkbox.
- 接続テスト:** A button.
- Buttons:** "OK" and "キャンセル" (Cancel) buttons at the bottom right.

必要な情報を入力して「OK」ボタンをクリックして下さい。

サーバー設定一覧

サーバー設定一覧には、100件のSMTPサーバー設定を登録することができます。複数のサーバーを設定・登録しておくことで、簡単にサーバーを切り替えることができます。登録されているサーバー設定をクリックして選択し、「標準設定へ」ボタンをクリックすると、選択された設定がコピーされます。「削除」ボタンをクリックすると、選択されたサーバー設定を削除することが可能です。

プロジェクト設定

プロジェクト設定は送信するメール（メールマジックプロフェッショナル書類）によってサーバーを切り替える必要がある場合に使います。通常は設定しません。この設定は認証が必要なサーバーでは使用できません。

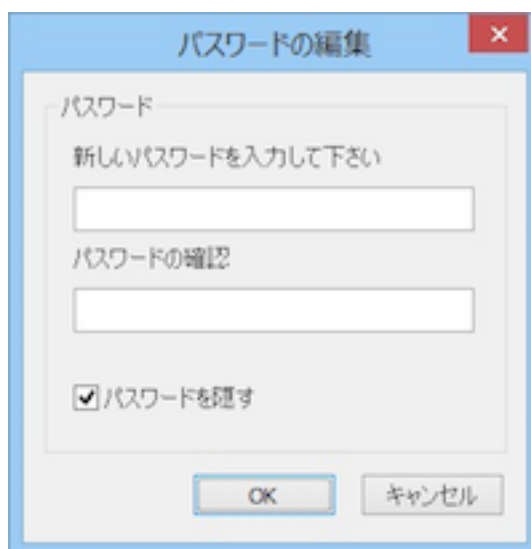
パスワード機能

アプリケーションを立ち上げる際、パスワードが要求されるように設定できます。パスワードを設定することで特定の人のみがアプリケーションを使用できるようになります。個人データを守るためには便利です。

1. パスワードの設定

「オプション」メニューから「環境設定」を選びます。

「動作」タブにある「パスワードの編集」をクリックします。「パスワードの編集」ダイアログが表示されます。



ダイアログに任意のパスワードを入れて、確認のため、もう一度入れます。

「OK」をクリックします。

※パスワードがすでに設定されている場合は、「パスワードの編集」をクリックすると現在のパスワードを要求するダイアログが表示されます。正しいパスワードを入れないと、パスワード編集のダイアログが表示されません。

2. パスワードを有効にする

アプリケーションを立ち上げる際、パスワードが要求されるようにするため、上記の「環境設定」の「動作」タブにある「パスワードを有効にする」チェックボックスをクリックする必要があります。

※注意：パスワードを有効にすると、アプリケーションを立ち上げる際、正しいパスワードを入力しなければアプリケーションが使えないので必ずパスワードを安全な場所に保管して下さい。パスワードがないとそのユーザーでメールマジックプロフェッショナルが使えなくなります。

日付の自動入力

各メールに日付が自動的に挿入されるように設定できます。

1.自動日付入力の使い方

今日の日付を挿入したいところにクリックしてカーソルを点滅させます。

「項目ウィンド」の「日付」をクリックします。

メール文に[[日付]]が表示されます。メールを送信するとそこに今日の日付が表示されます。

2.日付の形式の設定

「オプション」メニューの「環境設定」を選んで、「編集」タブをクリックします。「日付形式」メニューから形式を選びます。

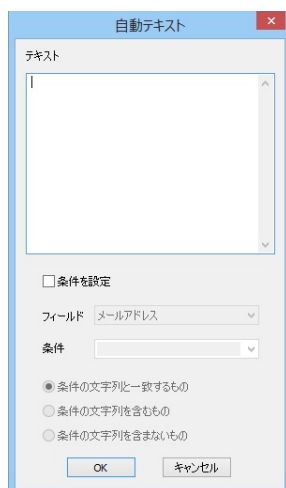
自動テキスト機能

自動テキスト機能を使ってメールに指定したテキストを挿入できます。データベースのフィールドの中身によってテキストが表示されるかされないか設定できます。例えば「様」または署名の自動挿入ができます。または受信者の性別、各位、住所などによってメールの中身が変わるように使えます。

1.自動テキストの設定

自動テキストの3パターン（テキスト1、テキスト2、テキスト3）を設定できます。

「ツール」メニューの「自動テキスト」のサブメニューから設定したいテキストの項目を選びます。下記のダイアログが表示されます。



テキスト：ここにテキストを入力します。

条件を設定：ここにチェックを付けると設定した条件の場合のみにテキストが表示されます。ここにチェックが付いていない場合はテキストは各メールに表示されます。

フィールド：条件の設定に使うフィールドを選びます。

条件：条件のテキストを設定します。ポップアップメニューから選ぶか入力します。

条件の文字列と一致するもの：これを選ぶと「フィールド」で選んだフィールドの中身が「条件」のテキストと一致している場合のみにテキストがメールに挿入されます。

条件の文字列を含めるもの：これを選ぶと「フィールド」で選んだフィールドの中身が「条件」のテキストを含んでいる場合のみにテキストがメールに挿入されます。

条件の文字列を含まないもの：これを選ぶと「フィールド」で選んだフィールドが「条件」のテキストを含んでいない場合のみにテキストがメールに挿入されます。

2.メールにテキストを挿入

テキストを挿入したいところにクリックしてカーソルを点滅させます。

「項目ウィンド」の「テキスト1」、「テキスト2」または「テキスト3」をクリックします。

メール文に「テキスト1」、「テキスト2」または「テキスト3」が表示されます。メールを送信するとそこに設定したテキストが表示されます。

3.項目ウィンドのボタン名の変更

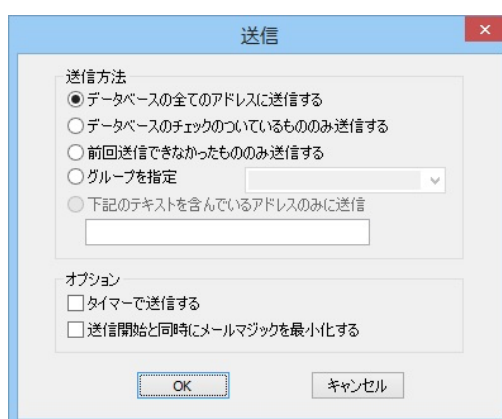
分かりやすくするために「項目ウィンド」のボタン名を変更できます。たとえば「テキスト1」を「様」の挿入に使う場合、ボタン名を「様」に変更にすると分かりやすいですね。

「オプション」メニューの「項目名」の変更を選ぶことでボタン名を編集できます。新しいボタン名は「自動テキスト」のサブメニューにも反映されます。

自動テキストは各メールマジックファイルに保存されます。新規のファイルには残りません。同じ自動テキストを複数のメールに使いたい場合（署名など）「ファイル」メニューの「テンプレート」を使ってテンプレートとして保存すると便利です。

送信先の条件設定

「送信」ダイアログにもう一つの条件設定が追加されました。設定されたテキストを含んでいるメールアドレスのみにメールの送信ができます。例えば「docomo」が入っているアドレスのみに送信できます。



条件の設定しかた

「送信開始」ボタンをクリックして「送信」ダイアログを表示させます。

「下記のテキストを含んでいるアドレスのみに送信」のテキストボックスに条件のテキストを入れます。ラジオボタンが自動的に選択されます。

プレビュー画面

プレビュー画面でメールのヘッダテキストを表示しないようにできるようになりました。

バージョン10からプレビュー画面を開くとメールのヘッダテキストが表示されません。メール本文のみが表示されます。

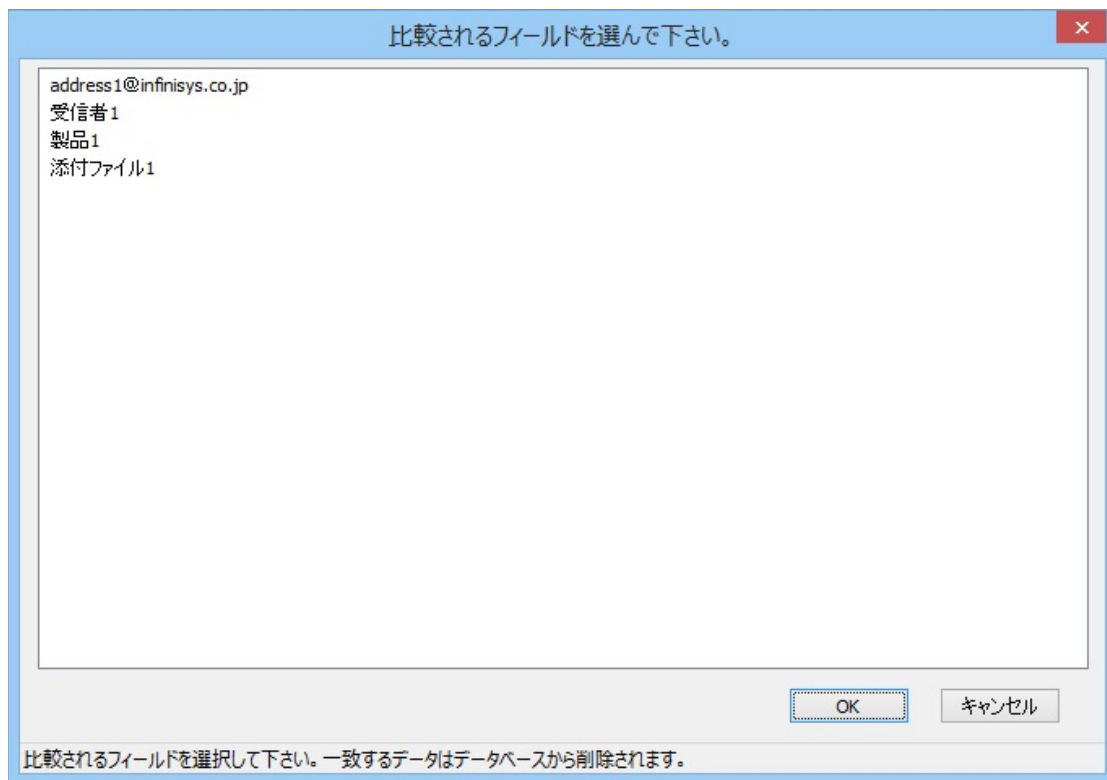


「ヘッダを表示」のチェックボックスをクリックするとヘッダテキストが表示されます。

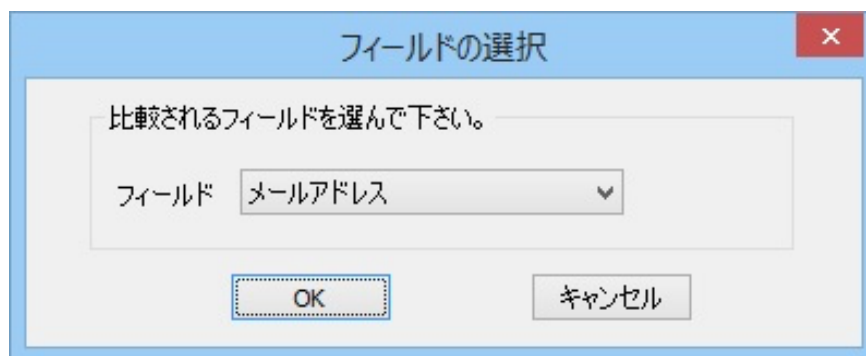
ファイルを使って重複データを削除

この機能を使って、テキストまたエクセルのファイルの内容をメールマジックのデータベースと比較して、そのファイルにあるデータと一致する項目をデータベースから自動的に削除することができます。例えばお客さんに、ある商品を特別価格で提供するDMを送った場合、商品を購入するお客さんのメールアドレスが入っているテキストファイルを準備すれば、そのファイルにあるメールアドレスをDMに使ったメールマジックのデータベースから削除して、まだ購入していないお客さんのみに催促のDMを送ることができます。

使い方



「データベース」メニューから「ファイルを使って重複データを削除」を選びます。
下記のダイアログが表示されます。



比較されるデータベースのフィールドをポップアップメニューから選んで「OK」をクリックします。

「ファイルを開く」ダイアログが表示されます。
比較するファイルを選んで「開く」をクリックします。

ファイルの形式によってテキスト形式またはエクセルのシートを選択するダイアログが表示する場合がありますが次はファイルに入っているデータのフィールドの中、どれをメールマジックのデータベースに比較するかを選ぶダイアログが表示されます。

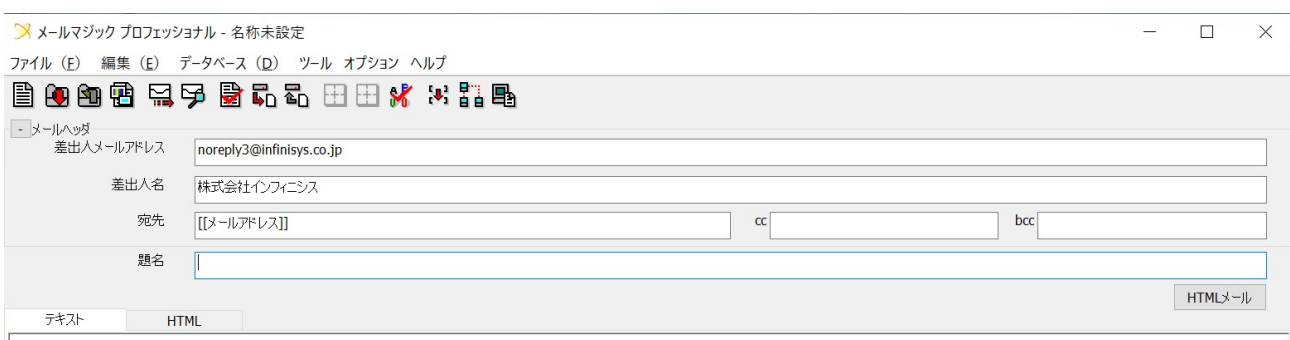
比較したいフィールドをクリックして「OK」をクリックします。

メールマジックのデータベースにファイルのデータと一致する項目がある場合、そのデータは自動的に削除され、データベースが開きます。

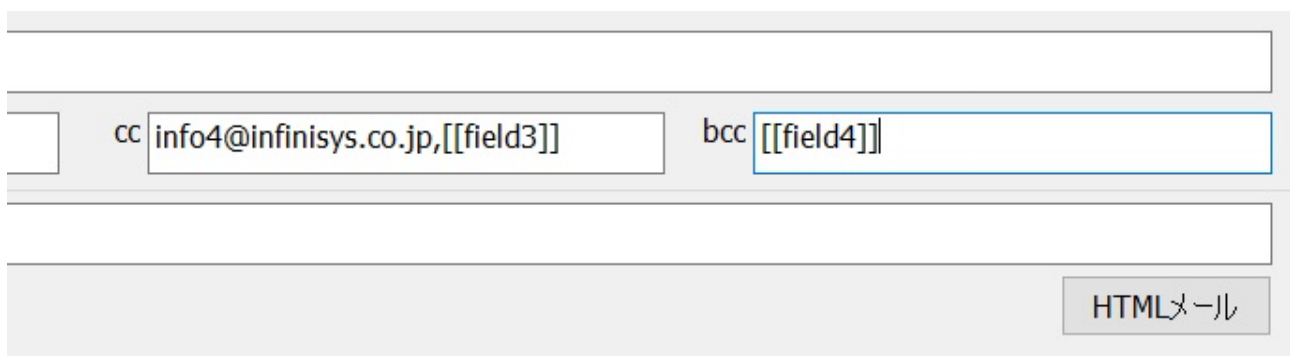
詳しい使い方に付いては「活用マニュアル」を参照して下さい。

CC送信とBCC送信

バージョン12からメインウィンドウの「宛先」の隣に「cc」と「bcc」のテキストボックスが追加されました。それぞれのテキストボックスにメールアドレスを入れることでccとbcc送信ができます。



カンマで分けて、複数のアドレスを入れることも可能です。データベースからアドレスを読み込むこともできます。テキストボックスをクリックしてから「項目」ウィンドウのフィールドボタンをクリックするとフィールド名が表示されます（例[[field3]]）。メールを送信する際、ここにそのフィールドのデータが差し込まれます。この機能を利用して一つ一つのメールにccとbccのアドレスの指定ができ、一部のみのアドレスにccまたはbccの指定ができます。



HTMLメールの作成

バージョン11.5からHTMLメールを自由に作成できるようになりました。メインウィンドウの「HTMLメール」ボタンをクリックすると「HTMLメール」ウィザードが表示されます。

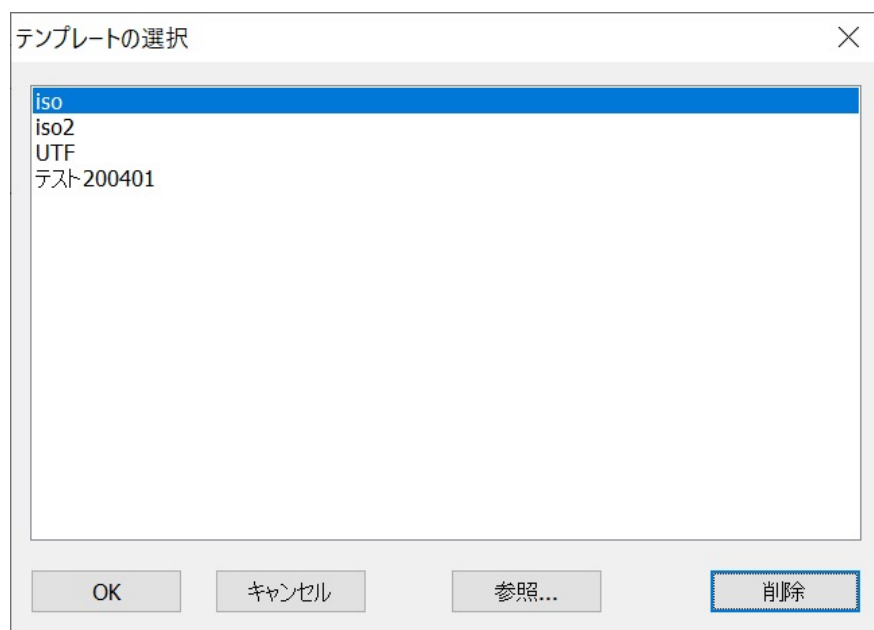


The screenshot shows a software interface with a '宛先' (To) field containing '[[メールアドレス]]' and a '題名' (Subject) field. Below these are two tabs: 'テキスト' (Text) and 'HTML'. The 'HTML' tab is selected. A red rectangle highlights the 'HTMLメール' button in the bottom right corner.

「HTMLメール」ウィザードの使い方に 付いては「HTMLメール」チュートリアルを参照して下さい。

テンプレートの選択

「テンプレートの選択」ダイアログに「参照」ボタンが追加されました。このボタンを使ってメールマジックの前のバージョンで保存したテンプレートを開くことができます。



「参照」ボタンをクリックするとフォルダを指定するダイアログが表示されます。前のバージョンのアプリケーションフォルダ (Windows (C:)/Program Files (x86)/Infinisysの中にあります) の中にある「Template」フォルダを選択します。テンプレートが「テンプレートの選択」ウィンドウに表示されます。開くとき、文字が化ける場合、「オプション」メニューの「エンコード」を「日本語 (SHIFT-JIS)」または「日本語 (ISO)」に変更して下さい。

「フィアル」メニューの「テンプレートとして保存」を使って再びテンプレートとして保存すればこの作業は不要となります。

「テンプレート」の使い方については「説明書」の52ページを参照してください。

動作環境

OS : Windows 7/ Windows 8/ Windows 10日本語版